

左京区保護司会会長賞

ともしび

のび太の灯

京都市立八瀬小学校五年 星川 草太

「のび太って、ドジでのろまだよね。」

先生がそう問いかけた。道徳の授業の初め、僕らはみんなそう思っていた。確かにのび太は勉強もできないし、スポーツもできない。この授業ではみんなでのび太のことを改めて見直してみる時間になった。

のび太はジャイアンにもスネ夫にもしずかちゃんにも誰にでも優しい。責められたり、嫌なことがあつたりしても、のび太の優しさは変わらない。

野球も鉄棒も勉強もまるできない。けれど、誰よりも時間がかかろうとも頑張ろうとする気持ちの強さがある。

のび太にはこんなにもいい所があるのに、どうしてドジでのろまだと思われているのだろうか。それはいい所が認められていないからではないか。学校の先生もママもテストの点数ばかりに目がいつてのび太のいい所を認めてくれない。通知票にのび太の優しさや気持ちの強さは評価されているのだろうか。のび太の学校の先生やママは特別なケースなのだろうか。僕らの世界にもテストや通知票がある。僕らの世界では僕らそれぞれの良さは認められているのだろうか。テストや通知票で評価されていることが全てではないと僕は思う。できない事ばかりに目を向ける社会では、一人一人の良さがうもれてしまい、いつしか消えてしまいかもしれない。

ある時、こんな記事を見つけた。

「ダウン症の高校生がマクドナルドでアルバイトを始めたら職場の空気が変わった。ベテラン店員も教わることが多い。本物の、『スマイル〇円』。」

高校2年生の渡辺さんはダウン症だ。マクドナルドでアルバイトを始めたことが記事では紹介されていた。流ちょうな会話や計算は苦手だ。

マクドナルドの仕事の中ではそういう力が必要な場面はもちろんある。渡辺さんにそれは難しい。でも誰にでも元気にあいさつをして、いつも明るく一生懸命だ。主に接客やトレー拭き、掃除をしている。給料は他の高校生と同じだ。ベテラン店員の人はこう言った。「誰にでも元気にあいさつをして、いつも明るく一生懸命なんです。それって接客の原点じゃないですか。私の方が学ばせてもらっています。」この職場では出来ない事にばかり目を向けているのではなく出来ることを活かして一人一人が活躍できる場所となっている。色んな人がおたがいに出来ることを発揮することで仕事に対する意欲が高まり、職場の空気が変わっているのだと記事では紹介されていた。

この記事に対して多数のコメントが寄せられていた。渡辺さんやお母さん、店長さんの行動、人間性を尊敬する、応援する。ポジティブなコメント。一方、十分に仕事できないのに他の人と同じ給料をもらうのはおかしい。できない部分をになう人は大変だよねというネガティブなコメントもあった。ポジティブな考え方が広がっていったら一人一人のいい所が認められる社会になっていくのではないか。

僕には二人弟がいる。僕達三兄弟はすぐにケンカをする。ある日一番下の弟が言った。

「悪い所を探すのはやめよう。」

僕はビックリした。僕が今考えていることとぴったり重なっているではないか。

まずは僕が明かりを灯していこう。その人の個性やその人らしさを認め合うことが明かりを灯すということだ。出来ないことばかりに目を向けて、明かりを消してしまっってはいけない。僕は、弟たちの明かりを大切にしていこう。クラスの友達一人一人の明かりを大切にしていこう。これから出会う全ての人達の明かりを大切にしていこう。その一人一人の明かりこそが社会を明るくするのだと僕は思う。